

# トラック輸送情報（平成19年9月分）

平成19年12月18日

国土交通省 総合政策局 情報管理部 情報安全・調査課 交通統計室

担当：平野、佐藤 内線28722

直通：03-5253-8346

ホームページ：<http://toukei.mlit.go.jp/>

## 1. 特別積合せ貨物

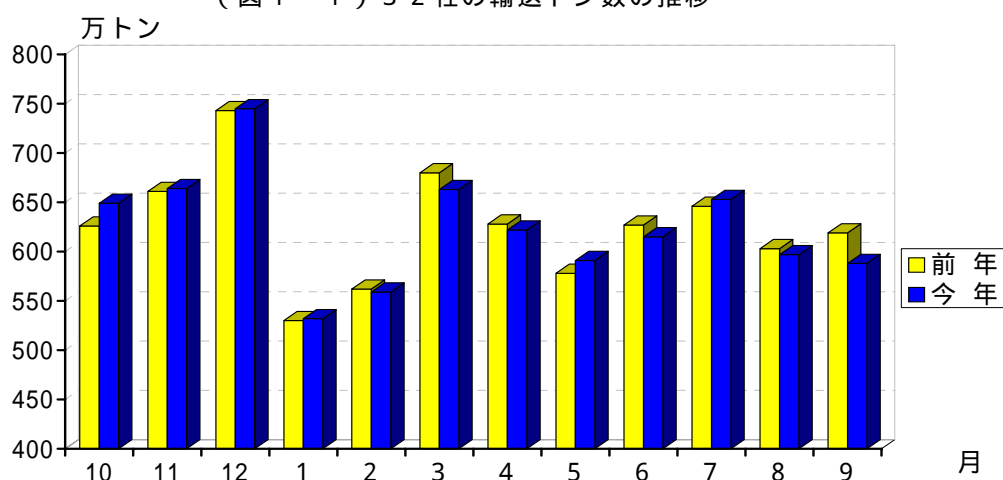
### (1) 本月の概況

調査対象32社の本月の輸送量は、5,879,867トンで、前月と比べ総輸送量が約9万トン減少したため、前月比98.5%（季節調整済み98.0%）となり、前年同月との比較では、約31万トン減少したため、前年同月比95.0%の実績であった。

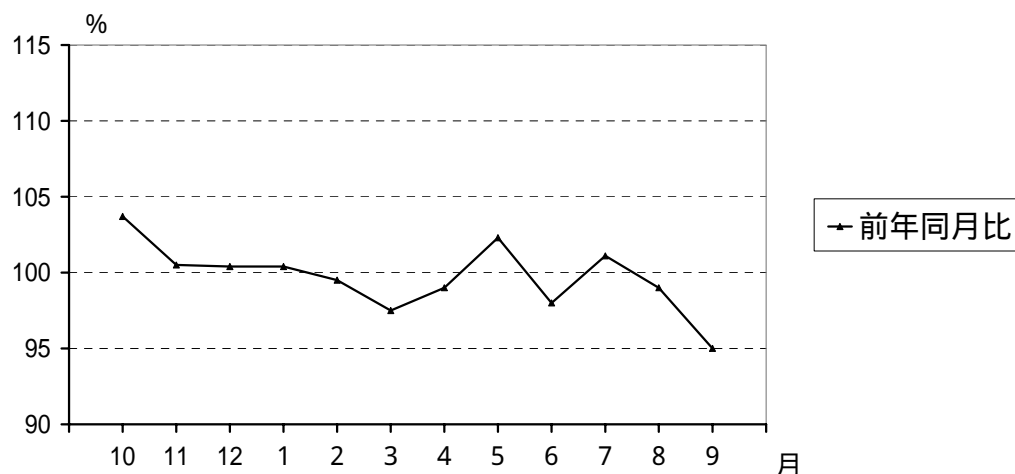
なお、平均稼働日数は22.5日で、前月と比べ1.0日の減少、前年同月と比べ1.1日の減少であった。稼働1日当たりの輸送量は、261,327トンで、前月と比べ約7千トン増加したため、前月比102.9%となり、前年同月との比較では、約1千トン減少したため、前年同月比99.6%の実績であった。

（図1-1、図1-2参照）

（図1-1）32社の輸送トン数の推移



（図1-2）32社の輸送トン数の前年同月比

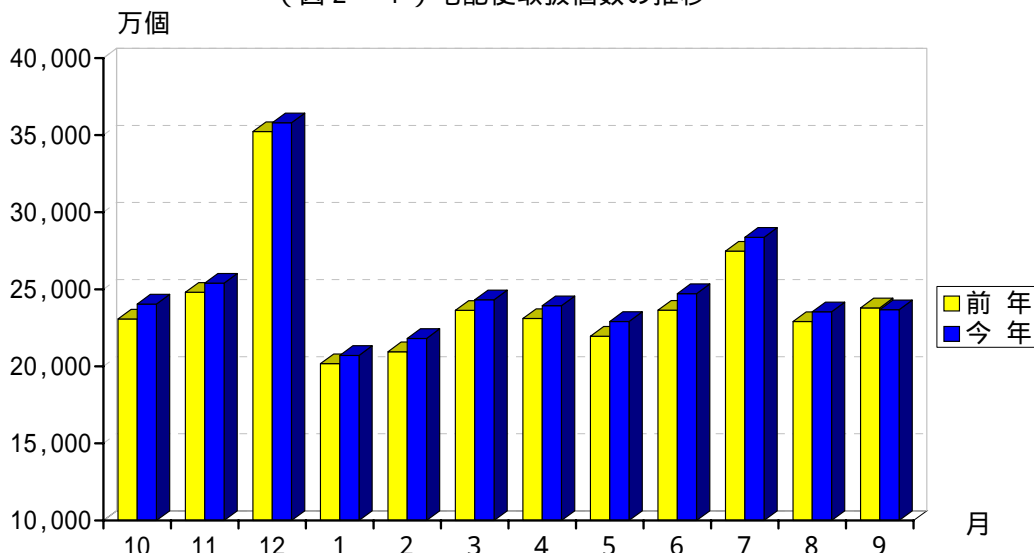


(2) 宅配便の概況

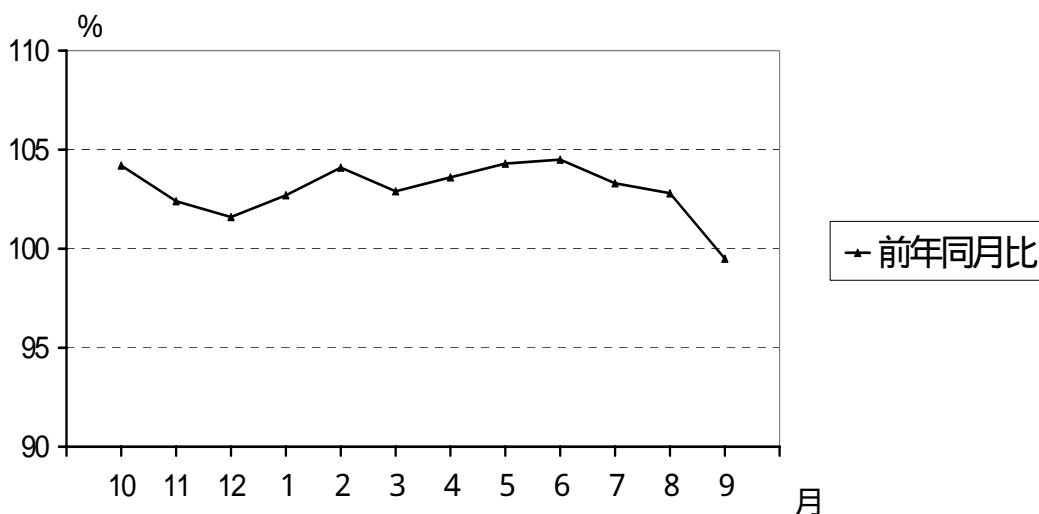
調査対象 19 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、236,726 千個で、前月と比べ約 131 万個増加したため、前月比 100.6% (季節調整済み 101.4%) となり、前年同月との比較では、約 117 万個減少したため、前年同月比 99.5% の実績であった。

(図 2 - 1、図 2 - 2 参照)

(図 2 - 1) 宅配便取扱個数の推移



(図 2 - 2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 品目別及び地域別輸送状況 (表 1 参照)

前月と比べると、稼働日数が減少したこと等により、貨物量が減少した。品目別では、「機械」、「化学工業品」、「繊維工業品」に増加がみられたが、その他の品目では減少回答が多くみられた。減少要因は、工場・生産地からの貨物減、商社・問屋からの貨物減及び倉庫から出る貨物減であった。地域的には、「機械」、「化学工業品」及び「繊維工業品」が東京、関東、中部を中心に増加した一方で、「農水産品」が中国で、「食料工業品」、「その他(百貨店配送品)」が東京、神奈川を中心に減少したほか、「日用品」については全国的に減少した。

前年同月と比べると、稼働日数の減少の影響が大きく、貨物量が減少した。品目別では、ほぼ全ての品目で工場・生産地からの貨物減を要因とする減少回答がみられたことに加え、「化学工業品」、「食料工業品」、「日用品」及び「その他(宅配便)」で商社・問屋からの貨物減、倉庫から出る貨物減等を要因とする減少回答がみられた。地域的には、ほぼ全ての品目で3大都市圏を中心に各地域で減少がみられた。

(表1) 品目別増減状況(回答事業者数 32社)

品目	増減事業者数					主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	増減要因	
	著増	増	変らず	減	著減				
前 月 に 比 べ て	農水産品		2	13	2	1	青果物	中国	4
	金属製品		3	20	4		その他の金属製品		
	機械		3	23	1		機械部品	東京、中部	4, 7
	化学工業品		5	22	3		織物	関東	2
	繊維工業品	1	5	23				東北、関東、中部	4
	食料工業品		3	18	6		飲料	東京	7
	日用品		4	20	5		書籍・印刷物	全国	5, 7
	その他		4	19	3	2	百貨店配送品	神奈川	
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品	1	1	13	3		青果物		4
	金属製品			13	13	1	その他の金属製品	関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国、福岡	4
	機械	2	1	21	3			中部地方	
	化学工業品		1	16	12	1	合成樹脂、その他の化学工業品	関東地方、愛知、近畿地方、中国、九州地方	4, 7
	繊維工業品		2	21	6		織物	関東地方、愛知、近畿地方、中国	
	食料工業品		1	18	8		飲料、その他の食料工業品	関東、愛知、兵庫、中国、四国、福岡	4, 5, 7
	日用品		1	16	11		書籍・印刷物、その他の日用品	関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国、九州	4, 5, 9
	その他		2	18	8		宅配便	神奈川、関東、愛知、大阪、兵庫、中国	4, 5

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらをのぞく府県、九州は沖縄を含む)]単位である。なお、地方運輸局に6大都市圏を含む場合は「～地方」と表記した。

増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

## 2. 一般貨物

### (1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者数 835 社 / 調査対象事業者数 1,077 社）の輸送量は、前月比 101.4%、前年同月比 98.4%であった。

### (表2) 地方運輸局別 前月比・前年同月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北陸信越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前 月 比	101.4%	103.4%	101.5%	98.8%	103.3%	101.5%	100.2%	102.4%	100.9%	99.2%	95.6%
前年同月比	98.4%	96.6%	98.2%	95.0%	107.8%	99.3%	99.8%	97.6%	100.4%	96.8%	111.6%

### (2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	<p>本月の輸送は、対前月比 103.4%、対前年同月比 96.6%であった。品目別には、本月は収穫期である野菜・果物及び建設関連の需要増により砂利・砂・石材といった工事関連品目が前月に引き続き増加を示した。一方、工場・生産地からの貨物減により紙・パルプの輸送量が減少したほか、廃棄物の輸送量にも減少がみられたが、それ以外の多くの品目で顕著ではないものの増加を示している。今後の輸送見通しについては、冬季前の各種工事の追い込みと収穫期である農産物の輸送量増加を要因として、次月及び以降ともに増加傾向と予想される。</p>
東北	<p>本月の輸送は、対前月比 101.5%、対前年同月比 98.2%であった。品目別には、季節的需要増等により「穀物」、「野菜・果物」、「その他の製造工業品」の輸送量が増加した。一方、季節的需要減等により「砂利・砂・石材」、「セメント」、「化学肥料」、「食料工業品」等の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに増加傾向と予想される。</p>
関東	<p>本月の輸送は、対前月比 98.8%、前年同月比は 95.0%であった。品目別には、倉庫への入出庫増により「その他の農産品」の輸送量が増加したほか、「食料工業品」の輸送量にも増加がみられた。一方、季節的需要減等により「機械」、「その他の製造工業品」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送は、対前月比 103.3%、前年同月比は 107.8%であった。品目別には、工場・生産地からの貨物増等により「非鉄金属」、「金属製品」、「機械」の輸送量が増加した。一方、工場・生産地からの貨物減等により「セメント」、「紙・パルプ」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに増加傾向と予想される。</p>
中部	<p>本月の輸送は、対前月比 101.5%、対前年同月比は 99.3%であった。品目別には、季節的需要増等により「日用品」の輸送量が増加したほか、「砂利・砂・石材」、「その他の製造工業品」の輸送量が増加した。一方、倉庫への入出庫減により「紙・パルプ」の輸送量が減少したほか、「その他の農産品」、「取り合せ品」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月は増加傾向、以降は横這いと予想される。</p>
近畿	<p>本月の輸送は、対前月比 100.2%、前年同月比は 99.8%となっており、お盆休みの反動等の影響で増加したものもあるが、減少したものも多く、結果的にはほぼ横這いとなっている。品目別には、工場・生産地からの貨物増等により「機械」、「その他の石油製品」、「その他の製造工業品」の輸送量が増加した。一方、商社・問屋からの貨物減により「野菜・果物」の輸送量が減少したほか、季節的需要減により「繊維工業品」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
中国	<p>本月の輸送は、対前月比 102.4%、対前年同月比は 97.6%であった。品目別には、季節的需要増等により「野菜・果物」の輸送量が増加したほか、工場・生産地からの貨物増等により「鉄鋼」、「金属製品」、「機械」等の輸送量が増加した。一方、季節的需要減等により「化学肥料」、「食料工業品」の輸送量が減少したほか、「紙・パルプ」等の輸送量にも減少がみられた。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに横這い傾向と予想される。</p>
四国	<p>本月の輸送は、対前月比 100.9%、対前年同月比は 100.4%となっており、対前月、対前年同月ともに上回っているが、事業者ごとの増減幅が大きくなっている。品目別には、季節的需要増により「野菜・果物」の輸送量が増加した。一方、季節的需要減等により「セメント」、「食料工業品」等の輸送量に減少がみられた。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
九州	<p>本月の輸送は、対前月比 99.2%、対前年同月比は 96.8%であった。品目別には、工場・生産地からの貨物増等により「木材」、「その他の窯業品」、「紙・パルプ」が増加したほか、建設関連の需要増等により「砂利・砂・石材」の輸送量が増加した。一方、季節的需要減により「その他の農産品」の輸送量が減少したほか、工場・生産地からの貨物減等により「金属製品」、「動植物性飼・肥料」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに増加傾向と予想される。</p>
沖縄	<p>本月の輸送は、対前月比 95.6%、対前年同月比は 111.6%であった。品目別には、「その他の化学工業品（合成樹脂）」や「廃棄物（OA機器等・上半期処分時期のため）」等の輸送量増加がみられたものの、季節的需要減による「取り合わせ品（引越貨物、内航船舶小口貨物等）」の輸送量の減少が多く、また「水産品（マグロ）」にも輸送量の減少がみられた。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに増加傾向と予想される。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況(対前月比)

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

品目		運輸局										
		北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
1. 穀物	増	1	4		1			1				7
	減	1	1		1							3
2. 野菜・果物	増	8	2		1			4	3	6		24
	減		1				1			6		8
3. その他の農産品	増	2		1								3
	減	2	1			1				1		5
4. 畜産品	増	1								1		2
	減		1					1				2
5. 水産品	増	4	1				1	1				7
	減	2	1					1			1	5
6. 木材	増	2	1		1					3		7
	減	2	1		1		1					5
7. 薪炭	増											
	減											
8. 石炭	増											
	減	1			1							2
9. 金属鉱物	増											
	減											
10. 砂利・砂・石材	増	7			1	1		2		4		15
	減	3	4		1				1			9
11. 工業用非金属鉱物	増		2		1					1		4
	減		2									2
12. 鉄鋼	増	1	1		1		1	4	1	1		10
	減		1				1	1	1	1		5
13. 非鉄金属	増	1	1		2					1		5
	減											
14. 金属製品	増	2	2		2		1	3				10
	減	1			1		1	1		1		5
15. 機械	増		1		4		4	2	1	1		13
	減		1	1	1		2			1		6
16. セメント	増	3						2		2		7
	減	1	2		2			2	1	2		10
17. その他の窯業品	増		1		1		1			3		6
	減				1							1

品目	運輸局	北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
		18. 揮発油	増	2			1					
19. その他の石油製品	増	2			1		1	1		1		6
	減		1		2					1		4
20. コークス・ その他の石炭製品	増				1							1
	減											
21. 化学薬品	増				1			1				2
	減				1					1		2
22. 化学肥料	増	1	1		1				1			4
	減		2					2				4
23. その他の化学工業品	増						1	3	1		1	6
	減						1	2	1	1		5
24. 紙・パルプ	増		1			1	1			2		5
	減	2	1		2	2	1	2	1	1		12
25. 繊維工業品	増											
	減		1				1					2
26. 食料工業品	増	1	2	1	1	1	4	2	1	4		17
	減	1	6			1	4	6	3	5	2	28
27. 日用品	増				1	2				2		5
	減				1			1		1		3
28. その他の製造工業品	増		2			2	1	1		1		7
	減			2	1	1		1		1		6
29. 金属くず	増	1										1
	減											
30. その他のくずもの	増											
	減											
31. 動植物性飼・肥料	増	3		1						1		5
	減	1		1						3		5
32. 廃棄物	増							1		3	1	5
	減	1		1					1	2		5
33. 輸送用容器	増	1										1
	減											
34. 取り合せ品	増				1			1		2		4
	減		1			2		2			3	8
35. その他	増	1		1	1			1	1	5	1	11
	減		1	1			3	2		1	1	9